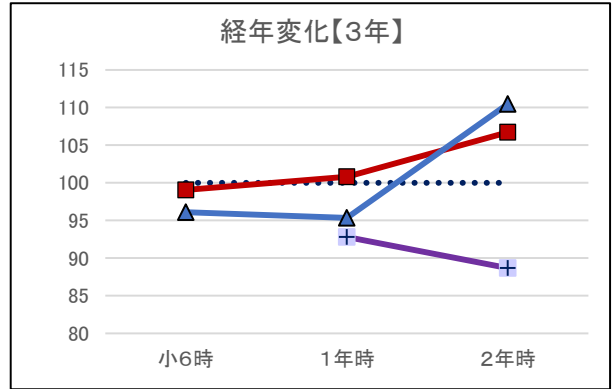
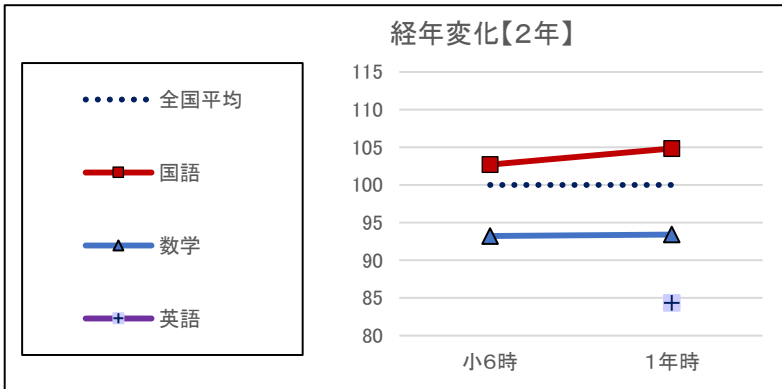


I 前年度の各種調査から見られる学校の状況

※釧路市では、1～2年生を対象に国語と数学で標準学力検査を実施していますが、本校では、独自に英語においても実施しています。

① 標準学力検査の経年変化（全国平均を100とする標準スコア）



② 学校の状況

【学習調査 1年 国語】

- ⇒ 1年生の国語の正答率は、『全国平均をやや上回っている』(+2.9P)
- ⇒ 領域別正答率では、「書くこと」(+12.9P)は大きく上回っているが、「我が国の言語文化に関する事項」(-3.6P)、「話すこと・聞くこと」(-3.4P)はやや下回っている。
- ⇒ 観点別正答率では、「主体的に学習に取り組む態度」(+11.3P)、「思考・判断・表現」(+5.0P)が大きく上回っており、「知識・技能」(±0)は同等である。

【学習調査 1年 数学】

- ⇒ 1年生の数学の正答率は、『全国平均をやや下回っている』(-3.9P)
- ⇒ 領域別正答率では、「図形」(-6.6P)、「関数」(-5.0P)が大きく下回っている。
- ⇒ 観点別正答率では、「知識・技能」(-4.3P)、「思考・判断・表現」(-2.1P)、「主体的に学習に取り組む態度」(-0.8P)の3観点ともやや下回っている。

【学習調査 1年 英語】

- ⇒ 1年生の英語の正答率は、『全国平均を大きく下回っている』(-8.9P)
- ⇒ 領域別正答率では、「読むこと」(-12.5P)、「聞くこと」(-6.3P)、「書くこと」(-5.5P)が大きく下回っている。
- ⇒ 観点別正答率では、「思考・判断・表現」(-10.7P)、「主体的に学習に取り組む態度」(-8.6P)、「知識・技能」(-7.2P)の3観点とも大きく下回っている。

【生活行動・学習活動調査 1年】

- ⇒ 「勉強にパソコンを利用している」、「勉強に図書館を利用している」が大きく上回っている。自宅に持ち帰ったタブレットを活用して勉強していること、また、校区にある釧路市中央図書館を利用する機会が多いことが考えられる。
- ⇒ 「睡眠不足にならないようにしている」、「学校に出かける前に、忘れ物がないか確かめている」、「自分で時間を決めて遊んでいる」が大きく下回っており、持ち物の管理やスケジュールの管理が十分にできていない様子が伺える。
- ⇒ 他に、「自分のことが好きである」の質問に対する肯定率が低かった。
- ⇒ 「国語の授業は理解している」は全国と同等であるが、「国語の授業のために予習をしている」、「国語の授業で習ったことは、復習をしている」、「国語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている」がやや下回っており、予習や復習の状況に課題が見られる。また、「分からない言葉があれば辞書を引いている」は大きく下回っている。
- ⇒ 「数学の授業は理解している」、「数学の宿題は、きちんとしている」、「数学の授業のために予習をしている」がやや下回っており、授業で習ったことをしっかりと復習（宿題も含む）し、余裕があれば予習してみる学習習慣を身に付ける必要がある。

【学習調査 2年 国語】

- ⇒ 2年生の国語の正答率は、『全国平均をやや上回っている』(+3.9P)
- ⇒ 領域別正答率では、「書くこと」(+8.8P)、「言語の特徴や使い方に関する事項」(+7.0P)は大きく上回っているが、「我が国の言語文化に関する事項」(-8.0P)は大きく下回っている。
- ⇒ 観点別正答率では、「主体的に学習に取り組む態度」(+8.9P)は大きく上回っている。また、「知識・技能」(+4.0P)、「思考・判断・表現」(+3.8P)はやや上回っており、3観点とも全国平均以上である。

【学習調査 2年 数学】

- ⇒ 2年生の数学の正答率は、『全国平均を大きく上回っている』(+5.2P)
- ⇒ 領域別正答率では、「数と式」(+6.1P)は大きく上回っており、「図形」(+4.6P)、「関数」(+4.5P)はやや上回っている。
- ⇒ 観点別正答率では、「主体的に学習に取り組む態度」(+8.8P)、「思考・判断・表現」(+8.0P)は大きく上回っている。また、「知識・技能」(+4.0P)はやや上回っており、3観点とも全国平均以上である。

【学習調査 2年 英語】

- ⇒ 2年生の英語の正答率は、『全国平均を大きく下回っている』(-5.9P)である。
- ⇒ 領域別正答率では、「聞くこと」(-7.7P)、「読むこと」(-5.6P)は大きく下回っている。また、「書くこと」(-4.6P)はやや下回っている。
- ⇒ 観点別正答率では、「知識・技能」(-8.1P)は大きく下回っている。また、「思考・判断・表現」(-3.7P)、「主体的に学習に取り組む態度」(-2.3P)はやや下回っており、3観点とも全国平均未満である。

【生活行動・学習活動調査 2年】

- ⇒ 「勉強にパソコンを利用している」が大きく上回っている。自宅に持ち帰ったタブレットを活用して勉強していることが考えられる。「朝は、自分で起きている」、「学校では、先生に挨拶をしている」の基本的な生活習慣にかかわる事項がやや上回っている。
- ⇒ 「困っている人の手助けをしている」は上回っているが、「家の手伝いをしている」は大きく下回っている。
- ⇒ 「夜は時間を決めて寝ている」、「睡眠不足にならないようにしている」はやや下回っており、睡眠時間が不足しているであろう状況が見られる。
- ⇒ 「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」、「家の人から言われなくても、進んで勉強している」は下回っているが、「勉強するときは、集中して勉強している」は上回っているため、家庭学習の自走を促す手立てが必要である。
- ⇒ 他に、「自分のことが好きである」の質問に対する肯定率が低かった。
- ⇒ 「国語の授業は理解している」は全国をやや上回っている。ただ、「国語の授業で習ったことは、復習している」は大きく下回っており、予習や復習の状況に課題が見られる。
- ⇒ 「数学の授業は理解している」は全国と同等である。「数学の授業のために、予習をしている」は大きく下回っている。「計算式は、後から見て分かるように、正しくきれいに書いている」はやや下回っており、予習や復習の状況に課題が見られる。

Ⅱ 今年度の学力向上に係る重点取組

① 学校全体での取組

授業づくり

- ・ 全国学力・学習状況調査や釧路市標準学力検査の結果を分析し、成果と課題を全体で共有・交流することで、授業改善の方向性を明確にする。
- ・ 子供たちが主役の「学ぶ意味と学ぶ楽しさを感じられる授業」を北中学校区の共通研究主題として、「釧路市が目指す授業」の内容に則った校内研修を進めることで、小中で連携し、9年間を見通した授業改善を推し進める。
- ・ 初任者層教諭（メンティー）が、中堅・ベテラン教諭（メンター）の授業を参観し、事後研での協議を繰り返すことで、授業のつくり方や授業スキルを学ぶ機会をつくる。
- ・ 単元（題材）を通して生徒が身に付けるべき力を明確にすること、その力を身に付けるために各単位時間において、どのような学習内容を位置付ければよいかなど、単元（題材）を通じた授業構想を明確にする。
- ・ 単元（題材）及び単位時間における評価規準を明確に位置付けるとともに、個別最適な学びを重視した授業改善を推進する。
- ・ 数学科では習熟度別少人数指導を実施し、個に応じた指導の充実を図る。

学習集団づくり

- ・ 学習課題に対して自分の意見を持ち、ペアやグループで話し合いながら考えを練り上げていく活動や取組を全教科で日常的に行う。また、必要があれば、自身の考えを一人で追究したり、既存のペアやグループにとらわれずに自由に交流したりする取組も進める。
- ・ ICTを活用し、自分の意見をロイロノートに書き込んで提出する、共有して他者の意見を参考にする、自分の書き込んだ意見を見せながら発表するなどの活動を活発に行う。
- ・ 学級経営をベースとして、教師が生徒を認める発言や温かい励ましを続ける。生徒もいろいろな意見を認め合い、そこからよりよい考えを探究できる雰囲気醸成する。
- ・ 音楽祭の合唱を一部縦割りにする、総合的な学習の時間のフィールドワークに関わる学習を全学年が関わる編成にするなど、学校全体で学びに向かい、深めようとする機会を設定する。
- ・ 上記の取組を、学校全体で徹底できるよう成果の周知を進める。また、生徒が学習集団を形成する意図（分かったことの交流なのか、課題解決のための戦略会議なのかなど）を教師が明確にもつ。

学習習慣・環境づくり

- ・ 学校生活の手引きである「北魂（ほっこん）」を使用して、「学習常規」「家庭学習の取り組み方」についての確認を常時行い、学校全体で共通認識をもって取り組む。
- ・ 定期テスト等の準備期間を校区の小学校も合わせてパワーアップ週間、NMD（ノーメディアデー）とする。
- ・ テスト計画表に生活リズムチェックの項目を入れ、望ましい学習習慣・生活習慣の啓発を図る。
- ・ 宿題は授業の学習内容を振り返ることができるもの、家庭学習は学習内容を活用して取り組むことができるものとして、生徒の学習への意欲付けを促す。
- ・ 空き教室に「置き勉ロッカー」を設置し、生徒が自ら必要なもの判断し、それ以外のものを学校に置いていけるような環境を継続する。
- ・ 学習専門委員会において、定期的に「Northern Project」を企画し、全校で家庭学習に取り組む習慣の確立に努める。また、学習意欲を喚起するような自由研究課題に取り組む機会を設定する。
- ・ 「学習常規」について、定期的に評価し内容の改善を図るとともに、校区の小学校と連携し9年間を通した内容となるよう充実を図る。
- ・ 自己調整力を「生徒が各種取組を進めるに当たり、自分でPDCAを回せる力」と捉え、学校における全ての教育活動において生徒が獲得できるよう取り組む。

② 各教科での指導の重点

国語科の重点

- ・ 「書くこと」を意識した授業を展開することにより、自分の考えをもった読み取りをできるようにする。
- ・ ICT機器を活用して、自分の意見や感想などの記述・交流を効果的に進める。
- ・ 漢字や語句については、時間を設定し、継続して学習する機会を増やすことで、効果的に進める。
- ・ 「話す・聞く」の分野にて、観点を明確にして話し合い活動を展開する。
- ・ 古文分野は、苦手意識をもたないような授業づくりと、基本事項の定着を意識し、授業を展開する。

数学科の重点

- ・ 学習課題に対して、自分の意見や考えをもち、他と交流したり説明したりする活動や、学習内容を振り返ったりまとめたりする活動を充実させる。
- ・ 単元指導計画に「探究型の学習」を設定し、学び合いや教え合いが進む授業づくりを進める。
- ・ 知識の活用や、説明の時間の増加に伴い不足する基礎・基本事項は、確認テストや宿題で補充し、定着させる。
- ・ ICT機器を活用し、意見や考え、証明などの記述・交流を効果的に進める。

社会科の重点

- ・ ICT機器を意見交流やまとめ学習に利用し、学習事項への関心を高めたり、学び合い・教え合いの活動を活発化させる。
- ・ まとめの学習でクロームブックを有効活用できる場面を増やす。

理科の重点

- ・ 実験や資料の活用を通して、話し合い活動の時間を増やす、互いの着目点を交流する、根拠や既習事項に基づいた結論に結び付ける授業を進める。
- ・ 演習問題を解く量を増やし、根拠に基づいた考えを使いこなせるようにする。
- ・ 交流発表において、生徒が根拠を明確にしたり、既習事項を活用したりするなど、説得力のある表現方法を身に付けるよう指導する。
- ・ 話し合い活動と科学的思考力が試される発展的な活動のバランスを調整する。

英語科の重点

- ・ 日常の授業と家庭学習の往還、それを踏まえた単元テストや定期テストへの繋がりを意識して実施し、主体的に学ぶ姿勢を育む。
- ・ パフォーマンステストでは、目的、場面、状況を踏まえた必要感のある課題を設定する。
- ・ タブレットの使用や学習形態の工夫により、多様な表現活動へ繋げる。
- ・ 小中連携を通して、Small Talkや言語材料を用いた活動において、繋がりを意識した授業づくりを進める。
- ・ 「教科書で教える」ことを念頭に、単元や1単位時間の中で生徒にどんな力を付けるかを明確にする。

音楽科の重点

- ・ 生徒に主体性をもたせるため、注目点を明確にする。
- ・ 目標を具体的に伝え、目的を理解させ、自発的な学習態度を育成する。
- ・ 生徒の理解度を確認しながら、適切な指導とサポートに努める。

体育科の重点

- ・ 自分の課題を自ら見付け、生徒同士の関わりの中で学び合える環境づくりを意識付けする。
- ・ 学習カードを利用して、個に応じた課題に必要なアドバイスをを行う。
- ・ 全体、グループ、個を観察する中で、タイミングのよい必要最低限の声かけを意識する。
- ・ 小学校における学習内容を把握し、系統性・継続性を重視したカリキュラムを開発する。

美術科の重点

- ・ 作品鑑賞やクラス内での意見交流、試作品づくりなどを通して、アイデアを膨らませた上で制作活動に取り組みさせる。
- ・ クラス、学年を超えて作品鑑賞をさせ、互いのよいところを認め合ったり、次の作品制作に活かせる点を発見させるよう努める。
- ・ 模倣から創造など、表現をさらに向上させるための個別指導ができる授業づくりを進める。

技術・家庭科の重点

- ・ 題材計画を生徒に提示し、見通しと題材を学ぶ必要性を意識させ、学習意欲を喚起する授業を展開する。
- ・ 実習は生徒の意欲を向上させるような内容を選択し、主体的に工夫する意識をもたせる。
- ・ ICTを活用して、効果的に資料の提示などを行う。
- ・ 校区の事業所と連携し、将来（自律と共生）を見据えた取組を進める。
- ・ 日常の授業において、「題材の目標」及び「題材の評価規準」を作成し、学習指導要領解説の記述を参考にするなどして、「題材の評価規準」を学習活動に即して具体化する。